

特集：情動／主体／文化

情動と感情は、よかれ悪しかれ、理性のネットワークに絡んでいるのかもしれない。

アントニオ・R・ダマシオ『デカルトの誤り——情動、理性、人間の脳』田中三郎訳、ちくま学芸文庫、2010年、21頁（原典初版、1994年）

^{アフェクト}
情動とは、人間が非人間的〔なもの〕に生成することである。

G・ドゥルーズ、F・ガタリ『哲学とは何か』財津理訳、河出書房新社、1997年、245頁（一部訳改変）（原典初版、1991年）

主体という言葉に内在する翻訳の問題を指摘することによって私が行おうとしたのは、サブジェクトの翻訳を自己完結的な回路から解放することであり、例えば、国民主体という言い方はできて国民シュタイという言い方はできない、ことを提示することであった。

酒井直樹『日本思想という問題——翻訳と主体』岩波書店、1997年、vii頁